第６期雄武町総合計画後期基本計画策定審議会第３回社会福祉・教育部会議事録

【日　時】　　令和４年１１月７日（月）　１８：３０～２０：３９

【場　所】　　雄武町役場別館　大会議室

【出席者】　　竹田　浩二　部会長　　佐々木光明　部会員　　大崎　禎浩　部会員
　　中島　　徹　部会員　　渡邊　　恵　部会員
（欠席者）大星　幸恵　部会長代理　中島　亜紀　部会員　　関岡　　修　部会員
　　四辻　裕二　部会員　　橋本　幸子　部会員　　松永　裕香　部会員
　　山田　香里　部会員
（　町　）事務局～横田財務企画課長　　渡部財務企画課長補佐
　　櫨山企画調整係長　　本村企画調整係
　　説明員～澤田保育所長　　中村教育振興課長
　　新谷国保病院事務長　小俣福祉給付課保険給付係長
　　黒澤健康推進課保健係主査

【会議次第】

１　開会

２　部会長あいさつ

３　議事

（１）第６期雄武町総合計画後期基本計画（案）について

４　その他

５　閉会

【配付資料】　・第６期雄武町総合計画後期実施計画（案）

【議事録】

1　開会（開会時刻：午後６時３０分）～　財務企画課長

2　部会長あいさつ

「皆様、大変お忙しい中、おつかれさまでございます。本日は第３回専門部会ということで、先日の審議会で事務局から提示のあった後期基本計画（案）の具体的な審議を行うこととなっております。先に開催された専門部会において、委員の皆さまから出されたご意見が、すべてではありませんが、この計画書に反映されているかと思います。そのあたりも含めまして、皆様からのご意見をいただきながら、会議を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。」

（以後、竹田部会長が司会を進行）

3　議事

（１）第６期雄武町総合計画後期基本計画（案）について　～承認

資料に基づき、基本施策の各単位施策の内容について企画調整係長が読み上げ説明後、基本政策ごとに質疑応答を実施。

【政策目標２　安心感の持てる福祉のまち・雄武】

●基本施策 2-6　保健・医療の充実

[2-6-1　疾病の予防と健康の増進]

（部 会 員）　前々回（第１回）の専門部会において、マイナンバーカードをもっと普及させることで、健康データと連携した取組が将来的にできれば良いと発言したところであり、また、特定健診の受診率が低いことに関して、マイナンバーカードを使いながら、マイナンバーカード自体に健康診断のデータ等が取り込まれる訳ではないのだが、東京都練馬区では活用している例があり、徐々に健康情報のデータ活用が進んでいるため、本町でも保健部局へ町民の健康データがフィードバックされて、町民の健康状態がどうなっているのかが掌握できるような時代になっていくかと思われる。現在の特定健診受診率が 28%であるが、遠軽町や名寄市の病院で人間ドックを受けている人は一定数おり、そういった方の分が数字に反映されていないため、施策目標の数字は不確実だと思われる。その他で話題として出たのは、国保病院が一次医療として町のホームドクターの役割を担い、二次医療、三次医療への橋渡しをしっかり行う体制の確立が重要

であることや、雄武町の温泉と国保病院の人間ドックをパッケージングしても良いのではないかという意見があった。温泉とのパッケージングについては個人的に面白いと思った。

（部 会 員） マイナンバーカードがどの程度使えるようになるのか、もし使えるようになるのであれば、病院等への機械の導入にお金がかかるかと思うが、様々なことに活用でき、カード１枚で済むようになれば便利だなと思う。先ほど「温泉と人間ドック」という話題が出たが、受診率を上げる方策として、意外な物事と組み合わせることで、受診意欲が高まるのではないかと思う。また、前回（第３回）の審議会で、病院に行くにあたって、高齢者・運転免許返納者の移動手段として、家族による送迎やバスでの移動の他に、低料金でサッと行きたい場所を周れるようなタクシーのようなものが話題に上がったが、そういったものをうまく組み合わせなければ、なかなか受診率も上がってこないかと思う。他の地域、前回の審議会で発言された委員も東京に住んでいた方で、「向こうではこういった事例がある」という意見をいただけたので、良いアイデアや情報を取り入れながら施策に組み入れていってもらえたら良いかと思う。

（部 会 員） たまたま、高校生で看護学や栄養学を学べる学校を志望している生徒がおり、様々な話をしているのだが、例えば、町にいる保健師や栄養士・栄養教諭、看護師等専門職の方々がいるかと思うが、正直言って雄武町の医療は都市部と比べて脆弱であるため、それを多少でも防ぐためには医療専門職といわれる方々、人的支援をする方々の連携する姿がどのようになっているかが見えていない。要するに、予防の取組はわかるが、病気となった場合にどう医療へつながるのかという流れがどのようになっているか、まだ私には見えてこない。健康増進のために何か取り組みたい方がいた時に、町の政策としてどういった連携の取組を実施しているのか知りたい。高校生と進路の話をしていて、予防できなかった時には医療を頼ることになるが、町内の医療体制では厳しく、町外の医療機関に頼るしかないことになる。第一次防波堤としての町の対応策はあるのか。

（ 町 ） 一次予防については、健康診断を受けることにより体に異変が生じたり症状が出たりする前に気づきが得られ、その気づきによって生活を見直すチャンスとなるということで健診の受診を勧めている。ただ、健診の受診率が低い状況が長年続いている。コロナ禍で更に受診率が落ち込むこともあったが、少し復調してきているところではある。健診の受診だけではないところで自分の健康を振り返る機会を持てるように工夫して事業を実施・展開してきている。その一

つに妊娠期、母子手帳を交付する際に、子どもが産まれる際の生活をイメージしながら今の自身の生活を振り返っていただき、健診を受けていなくても生活習慣を振り返ることができる機会を設けている。また、町内の小学校・中学校・高等学校に出向き、歯の健康等、健康づくりのための講話を実施しており、様々な場面で健康の情報をお伝えして、自身や家族の健康状態を振り返っていただく場面をつくることを意識して関わっているということが一次予防の一つかと思う。更には、健診を受診していただき、医療につながる前の段階で健康状態に気づいていただくことで、治療が必要な方や重症化リスクが高いような方には医療機関とも連携して受診していただき、継続して受診していただくことで入院リスク等を予防するということに取り組んでいる。

（部 会 員） 生徒が、将来保健師として地域の健康増進に取り組み、防波堤となりたいということを考えているのだが、どういうことをすればより現実的に町民の中での活動として意味のあるものとなるのか、実行するにしても１人では難しいため、例えば町の行政機関や栄養教諭と連携しながら総合的に健康を考える啓発活動が無いと無理だと思う。言うのは簡単なのだが、具体的に考えた時に策が無いなと自分でも思ってしまったため、（町として策があればと思い）質問した。

（部 会 員） 職場では遠軽厚生病院で人間ドックを受診でき、検査終了後、診療内科医と管理栄養士からの指導があり、数か月後に再度血液検査を行う流れとなっているが、健診結果をマイナンバーと紐づけてデータバンク化し、検査結果を踏まえて町内において保健師との相談や健康指導が行えるような体制になれば、いちいち遠軽まで向かわなくても良くなり、国保病院で再診（経過観察）を受けることができる。重症化する可能性がある場合は、適切な病院への紹介状を書いていただく等、そういったことをイメージしている。基本的に病というのは医食同源、日頃の食事によって左右されるため、町民が管理栄養士や保健師とうまくコミュニケーションを取れるような展開、例えば町民講座等の開催等も一つの手かと思う。

（ 町 ） 特定保健指導はどういった人を対象にしているか。

（ 町 ） 特定保健指導は、生活習慣病を発症する前で、生活の見直しによって投薬等の治療にはつながらないで一次予防ができるであろうという方を対象に健康相談を実施している。

（ 町 ） 基本的に保健師がマンツーマンで指導するため、遠軽町で健診を受けた方に関しても特定保健指導について案内が来るかと思うが。

（　町　）　そうである。本人には、問診票の一番下部に特定保健指導を希望するか否かという記載をしており、特定健康診断を契約している医療機関からは、健診結果を受け取ることができるため、その結果をみせていただき、町から健診結果をお返しする際に、「健康相談をさせてもらえませんか」「お話を聞かせてもらえませんか」と、個別にではあるがアプローチをしている。

（部 会 員）　町外の病院で人間ドックを受けた方も町内でフィードバックができるのであれば、取組のフロー（流れ）について町民に周知してもらって、町民と保健師とのコミュニケーションをより強固にしてもらいたい。

（部 会 員）　２年ほど前に特定健康指導を受けた際に、保健師２名に対応いただいて、親身に相談に乗っていただいた。

（部 会 員）　女性特有のがん検診を定期的に受けているのだが、乳がんや子宮頸がんの検査について、婦人科を受診することに「こわい」「行きにくい」というイメージを皆さん持たれていると思う。「がん検診って何をするのだろう」「わからなくてこわい」といったイメージが強いと思う。がん検診を受けたことが無い方、婦人科に行きづらいという方はそういったイメージを持たれているため、受診率が低いことにつながっているのかと思う。

（　町　）　特定の年代の方へのクーポン券の発行や検診受診のお誘いを実施しているが、委員の話を伺って、確かに検査の内容について詳細に記載できていなかったと振り返った。今年度これから１月にも女性だけが受診できるがん検診の日を集団検診で設けているため、そこに向けて改善できるよう努めたい。

（部 会 員）　町でも子宮頸がん等のがん検診を受けることができるのか。

（　町　）　受けることができる。子宮がん検診は子宮頚部の細胞組織を取ってがん細胞が無いかどうかを診るものであるため、その日に合わせて雄武町では今年度からHPV（ヒトパピローマウイルス）の検査も受けられるよう拡充して対応している。

（部 会 員）　婦人科検診については早期の健診が肝要である。早期健診の重要性を健診内容と併せて啓蒙していただきたい。

[2-6-2　親と子の健やかな成長の支援]

意見なし。

[2-6-3　「産みたい」希望の実現]

（部 会 員）　プライベートかつデリケートなことであるため、匿名性のある相談体制の確立が必要である。

[2-6-4　メンタルヘルス対策の推進]

（部 会 員）　非常にデリケートな問題であるため、匿名性のある相談体制を整備する必要がある。

[2-6-5　地域医療の確立]

（部 会 員）　この施策は町民の関心度が非常に高い部分であると思う。前回（第３回）の審議会において医療バスについての意見交換の場が設けられ、委員から様々な意見が上がったところである。第６期総合計画の前期計画の策定審議会答申における付帯意見でも『人口減少対策の中でも、医療体制の充実を望む声が多く、今後も国保病院における、本町に常住している医師の確保や、ニーズの高い診療科目の充実等、医療体制の確立に努めること』としており、今の町民の感覚では、この付帯意見とかけ離れているのが現実であると思う。決して過激なことを言うつもりは無いが、専門部会としてどう町民に伝えるか、どう施策に訴えるかということだと思う。私にとっては雄武町の病院として、病院長、町長も含めて地域医療について、金銭的なものも含めて、真剣に取り組んでもらいたい。令和３年度は４億５千万円、一般会計から病院事業会計へ（繰出金として）支出されているが、特別交付税として約１億６千万円が町の収入として入ってきているため、実質、町の負担は約２億８千万円程であるという。億単位のお金が病院運営に使われている。医者がもう少し外来なり利用人数を増やせるような医療体制でやってもらわない限りは、この額（繰出金）が減っていかない。現実、国保病院が 10 年後、20 年後まで「病院」として確立できるのか非常に不信感がある。

（部 会 員）　町の存続には人口減少を食い止めなければならず、そのために大切なのは医療であると思う。子どもを産みたいと思っても、年 10 人くらいの出産で産婦人科の医師を１名配置するというのは難しいかもしれない。しかし、他の診療科であれば多く受診できるものもあるのではないかと思う。素人であるため、どのくらいの受診者数がいれば妥当なのか基準がわからないのだが、特に、子どもは病気になりがちであり、しかも、遅い時間に発症することもあるため、小児科等、ある程度の診療科については、診てもらえるだけでなく、ある程度、入院が必要とされるような場合も出てくるかと思う。そのためには、看護師の数も必要になり様々な課題が出るかと思うが、担当医の数も増やすというところも、これまでの話し合いの中では、検討の余地の一つであったかと思う。また、看護師の人手不足については、以前も個人的な思いで発言したが、例えば、

他の町でシングルマザーとして子育てをしながら医療従事者として携わっている方が、子どもの成長や子育て環境を考えたときに、ある程度の条件が揃えば、「雄武町に来たい」と思うような方も全国にはいるかと思う。そのため、情報発信等、町を挙げて、人手が必要なのであれば、まずは医療から力を入れていっても良いのではないかと個人的には思う。

（部 会 員） 議会だよりを隅から隅まで読んで理解しようと思ったが、何回読んでも何を伝えたいのか、なかなか理解できない。医療が重要だという認識は皆さん共通していると思う。私はまだ病院にかかることがあまりない健康な状態であるため切迫感がないのだが、この町の人口構成比から考えると、かなりの部分の方は（病院に）かからなければならない状態があり、町の医療が十分でないため紋別市や名寄市、場合によっては札幌市の病院へ行かなければならないということは、町としては避けなればいけない事態なのだというのは非常によくわかる。医療と福祉はある意味町を形作るライフラインであるため、安定していないといけない。自宅のある旭川市の近隣自治体の広報紙を見ると、「福祉のまち」を高らかに謳っている。福祉や医療の充実を強調できないのは、今の時代厳しいかと思う。「では、どうすればよいのか」と言われたら策は無いのだが、現在町が実施している事業も含めて「雄武町の医療・福祉に関してはもう何も言うことは無い」と言われる状況になってはじめて安心感が生まれ、大手を振って歩ける町になってほしいと思う。

（ 町 ） 公立病院の役割について考えると、「不採算」を担わなければならないというものがまずある。先程「どのようなニーズがあるか」とあったが、現状、国保病院で標榜しているのは、内科、外科、整形外科、旭川医大からの出張医を招いての小児科、これは町民のニーズに基づいた診療科であり、それから耳鼻咽喉科、これは週に１回、木曜日午後から診察している。先程産婦人科の話題があったが、やはりこの町村規模・出生率で常勤又は通いで来ていただくというのは、近隣の基幹病院（広域紋別病院）でも産婦人科の先生が少ない現状である中、難しいという思いがある。また、診療科を増やすことによって、曜日にもよるかと思うが、そこに１人看護師を配置しなければならない。更に、診察スペースを確保しなければならないということも考えると、果たして今の耳鼻咽喉科、小児科が適切なのか、ニーズに変化が無いのかということを、どこかの段階で検証する必要があるのではないかと思う。実際、耳鼻咽喉科は１日 20 人以上来院している。小児科は毎週月曜日（午前・午後）と隔週金曜の午後に

診察しているが、医師には前日に来町し宿泊いただいて、１日診察いただいて送り届けるという形で、当然お金はかかってくるのだが、交付税で措置されるため、継続している。また、当院では透析治療を実施しているが、平成 15 年に病院を建て替えた際の町民ニーズに基づいて開始したものである。ただ、人口減少に伴って患者数はかなり少なくなってきているため、そういう現状があるということと、中々診療科を増やすということは難しいということを理解していただきたい。また、医者や看護師を増やすために何をしているか皆さん詳しくはわからないかと思うが、簡単に医者が来るというのは本当に難しい。過去にも病院事務に携わったことがあるのだが、よくあるのが、関係機関に対して「どなたかいらっしゃらないか」とお願いをして、北海道地域医療振興財団等から「こういった先生がいるのだが」と連絡が来れば、当院に合う人材か、本州であろうがすぐに面談をしに行く。誰でも良いということではなく、当院が掲げている診療科の適切な診療ができる医師である必要があり、また金銭面、休業日の面等様々な部分での条件のすり合わせを行うが、うまくかみ合わなかった場合は「今回はすみません」ということにも当然なってくる。現在は、民間の紹介業者に広告掲載を依頼している。大手の業者であると登録している医師が多い。５社と基本契約を結び情報提供いただくことになっている。もし、当院に興味を示していただく医師がいらっしゃれば、話を聞き面談までたどり着いて、うまくいけば採用ということになるが、やはり地域的に空港が紋別空港の１便しか無く、交通の便を考えると中々オホーツク地域を希望される医師がいないというのが現状である。当院は昔は３～４人常勤の医師がいたこともあったが、その後、退職されてからの補充が中々できずに、非常勤の医師（月曜日から金曜日まで毎週来てくれる医師、毎週木曜・金曜に来てくれる医師、不定期で来てくれる医師）を確保して医療体制を維持していたが、現状、定期で来ていただいている医師は１名のみ（毎週木曜・金曜）であり、月～水曜は毎週違う医師が来るため、前歴の踏襲ではないが、カルテを見て「（この患者には前回）この薬を処方しているんだ」と、しっかりと向き合えないという現状にあるため、最低でも定期の非常勤の医師、毎回来ていただいて患者と向き合える医師が必要である気がしている。看護師についても同様に、契約職員、「応援ナース」という言葉をテレビで目にする方もいるかと思われるが、各地方から紹介業者を通じて来ていただいている看護師が５名いる。紹介業者を挟むとどうしても紹介手数料が発生して経費がかさむのが現状であるが、病院の機能

を維持するために必要な看護師の数が決まっている。何とか今はクリアしている。交通に関しては医療だけの話ではない気がするため、町全体で考えるべきところであると思われる。

（部 会 員） 地域医療の採算性について、不採算ベースになることが仕方のないことだとしても、あまりにも費用対効果が低い。病院長は地域に根ざした医師が適任であると多くの町民は思っていると思う。私からの提案があるのだが、特別養護老人ホームの増床について、ハード面も老朽化し大変かと思うのだが、少なからず「終活」を考慮した時に、やはり訪問介護、在宅介護、そして訪問医療ができる医師、できれば「自宅で人生の最期を迎えたい」という患者も多いと思うため、そういった場合に訪問医療ができる医師がいる体制がある、そのぐらい地域に根ざした病院長が国保病院に関わってほしいのが私の願いである。少なからず、地域医療を考えられないような医師であれば、正直な話、極端な言い方をすると、うちの町にはいらないと思う。地域に根ざす病院長がいる町村の病院であれば、訪問医療等を実施している病院が何か所もあると聞いている。訪問医療を行う場合、保険診療の点数も上がるため、病院会計も幾分改善されるのかと思われる。お金だけの問題ではないが、地域に根ざした医師が必要である。先程議会の話題が出たが、議会と町民の思いがミスマッチしている気がする。委員が言われたように、議会だよりを見ても何を言っているかわからないというのが町民の本音であると思う。そういった部分も含めて、もし可能であれば、国保病院の運営に関する意見交換会の開催等、町民に向けたアナウンスが必要なのではないかと思う。また、他の部会の話題になるが、議会議員についても、できるだけ議会報告会、特に今中心になるのが医療、病院の問題であるため、町民に向けて明確にアナウンスしてもらいたいと思っている。

（部 会 員） 子どもがいる身としては、やはり小児科がほしい。子どもはいつ病気になったり急変したりするかわからない。病気は待ってくれないので、紋別市や名寄市の病院に向かうにしても、特に冬場は大変であるため、小児科医は常時いてくれたほうが良いと思う。（小児科医を）常勤で置くには難しいという話であったが、「『産みたい』希望の実現」という施策につながっていくかと思う。

（ 町 ） （委員の意見に対する回答として）訪問診療について、実際には患者からの要請があれば、医師が訪問し診療しているのが現状である。また、在宅医療に関しては、あくまでも 24 時間体制でしっかりと医師が訪問できるような体制が整わなければ、在宅診療所として高いお金は貰えない（保険診療の点数が上が

らない）ため、その辺りは誤解のないようにしていただければと思う。医師の数が少ない中だと、夕方の一定の時間、空いている時間に訪問することとなり、「自宅で最期を迎えたい」という方に対して対応したケースもある。

●基本施策 2-7　高齢者支援の充実

[2-7-1　安心して暮らせる環境づくり]

（部 会 員）　この施策については、前回の部会において、介護する側の人材確保、人手不足を解消するためには、ベース賃金のアップや、頑張った者に対する賃金等への反映等、待遇を改善する仕組みについて提案があった。また、特別養護老人ホームのベッド数が少ないことによる入所者の順番待ちの解消についての検討について意見があった。

（　町　）　（入所希望者が入りきれていないということを踏まえて、）本町の特別養護老人ホームは介護保険制度の始まりの時に、脳溢血（のういっけつ）の方を引き取る場という形で建設されているため、おそらく施設本体は時代にも合っておらず老朽化が進んでいる。ただ、ユニット部分は後から建設されているため、しっかりとした建物になっている。入所待機者が多いと言われているが、現実にどうなのかというと、「申込だけをしているけれども、実は他の所に既に入所している」であるとか、「念のため（入所）申請だけしている」等、必ずしも「待機者数＝すぐに入所したい方」ということにはなっていないかという気がする。「これから施設をどうしていくか」ということを考えなければいけない時期が近いうちに来ると思われるが、今後も高齢者が増えていくかというとそうではなく、これから減少していくことを踏まえた中で検討を進めていかなければならないかと思う。国保病院に併設している介護老人保健施設は、リハビリをして自宅に戻れるよう支援する施設であるが、「家でもう面倒を看きれないが、特別養護老人ホームの空きが無く入れない」といったケースも中にはあり、家族の負担を考えて病院長等が考慮している場合があるため、事実上特別養護老人ホームの入所待ちとなっている方もいるような現状にある。

（部 会 員）　待機者数については、結局ベッド数が足りないため他市町村の施設に入所・検討している方もいるかと思う。地元の施設に入所したいというのが現実かと思う。事務長が言われたとおり、介護老人保健施設も併用しながらやっていくしかないのかもしれない。ただ、数十年後にはハード面も何らかの形で考えなければならない。その時には国保病院がどうなるかも含めて検討しなければならない。

[2-7-2　いきいきと活躍できるまちづくり]

（部 会 員）　管内自治体において、高齢者が老人クラブ等で手芸品や野菜、弁当を作り、それを出店して売るという取組を実施しており、高齢者の生きがいづくりにつながるかと思う。どうしても高齢になると家に引きこもりがちになるため、外に出るような取組があると良いかと思う。変な言い方になるが、昔はお寺での葬式をやると高齢者が大勢集まり、自治会の談話の場となっていた。中年である自分も聞いていて楽しいと感じたものであるが、今はそういった場が無いため、そういったものに代わるようなものがアイデアとして欲しいところである。

（部 会 員）　高齢者の健康状態によって対策や取組が変わってくると思う。施設に入所されている方にとっても対応が変わってきてしまうため、難しいことだと正直思う。

●基本施策 2-8　子育ち・子育ての充実

（部 会 員）　前回の部会では、保育士の担い手不足の対策について議論した。また、地域ぐるみの子育て支援について、雄武小・雄武中・雄武高校と同じエリアにあるが、図書館が少し離れてしまい、児童センターは更に相当離れているということについて、何とか循環バスを運行して対応できないかという意見もあった。

（　町　）　ご指摘のあるように保育士は不足している状況である。昨年度末時点で定年退職者も含め５名が代替保育士としてお手伝いいただいているが、職員としての保育士が不足している。今年７月から１名、男性の保育士が勤務を開始している。取組としては、過去から４年制大学、短期大学、専門学校、保育士養成施設へ求人依頼を送付しており、直接出向いて確保の依頼をしていたところであるが、ここ２、３年は、コロナのせいにする訳ではないが、中々出向くチャンスに恵まれていない状況である。これまでのハローワークへの求人、町のホームページでの求人のほか、新たに、人材バンクへの登録、今年は北見市で開催された「福祉職場説明会」に初めて出展したところであり、今後も継続していくべきと考えている。現在、専門人材確保について西紋別地区町村会（紋別市を除く西紋地域４町村）の広域連携事業が立ち上がっており、採用につながるよう期待しているところである。来年以降も引き続き求人に向けた動きはしていかなければならない。また、奨学金制度についても、中学生になると高校への進学も含めて進路希望調査も開始され、子どもたちもおぼろげながらでも自分の将来を考え始める時期であり、域外の高校へ進学する生徒もいるかと思うが、大半は雄武高校や紋別高校等の普通高校に進学し、４年制大学、短期大学、専門学校等という選択肢も含めながら、将来自分がどういう職業に就きたいの

か、ある程度確立できるかと思われるため、生徒たちの想いを的確に捉え、既存の奨学金制度に組み込めるものなのか、又は保育所サイドとして新たに制度を作るべきなのか精査する必要があるため、これは検討に値するものであると思っている。

（部 会 員）　今の奨学金制度については高校生等へ周知されているのか。

（　町　）　保育士に限ったものについては制度が無い状態である。生徒の要望、「将来どういう職業に就きたいか」ということを精査・把握した上で、対応したいところである。

（　町　）　既存の奨学金（貸付金）制度については、医師、看護師、保健師、医療技術者等が対象である。

（部 会 員）　歯科医や歯科衛生士は対象か。

（　町　）　町で施設を持っていないため、対象になっていない。なお、令和２年度から土木技師・建築技師も制度を新たに制定した。保育士については、昔と比較すると相当確保することが難しくなってきているため、検討には値すると思う。（奨学金制度を）実際やるというのは別であるが、人材を確保しづらくなっているということで、広域連携事業として紋別市を除く西紋４町村で特設サイトを作ることとしており、どちらかというと道内よりも道外の方をターゲットにしている。道内の方に、例えば「雄武町に来ませんか」とアピールしてもダメだとのことである。また、新卒よりも実際に働いていて、北海道に移住したい方にターゲットを絞り、今年度から３か年継続して実施する予定である。

（部 会 員）　非常に楽しみな取組であると思う。

（部 会 員）　元々保育士免許を持っていて、今はやっていないという方は世の中には沢山いるかと思う。私の友人で、昔保育士をやっていて今はやっていない方からは、「もう保育所の先生はやりたくない」という話を聞いたことがある。それはやはり、言い方は悪いのだが、昔と比べて今はうるさい親、文句を言う親が、保育所に限ったことではないと思うが多くなってきており、そういった方への対応が嫌だという方もいる。現職の保育士である友人からも、「保育所の先生は大変だ」、辞めた友人も「（保育士を）やりたくない」という声があがっている現状である。中々保育士が確保しづらいというのは周りからも聞くが、子どもと関わることが好きで保育士になったのに、親が文句を言ったり、言いがかりをつけたりするところで「保育士になりたくない」「もう保育士をやりたくない」と思ってしまう方が多いのではないかと思う。

（　町　）　委員が言われたように、今は保護者対応がネックになっている。また、年々、これからも横ばい傾向かもしれないが、特別な支援を要する児童が増加傾向にあると思う。保護者への対応、関係機関との連絡・調整・情報共有、小学校へのつなぎも含めて、その辺りが保育士も大変になっているかと思う。現在、主任保育士を中心に、全職員でフォローできるような体制になりつつあるため、これからも継続し、一人ひとりの負担を減らしていかなければならないと思っている。

（部 会 員）　保育所は PTA のような仲介団体はあるのか。

（　町　）　母親の会はある。

（部 会 員）　コロナ禍でコミュニケーションが取れない部分があるかと思うが、学校 PTA も同じで、（学校と保護者の）クッションとならなければいけないのは PTA である。保育士にしても学校の先生にしても、直接怒号を浴びるのは非常に気の毒であると痛感している。

（部 会 員）　「時代の流れ」と言ってしまってはそれまでなのかもしれないが、親が過保護というか、昔と違って大事にし過ぎているという気がする。難しい問題であるかと思う。

（部 会 員）　きょうだいが少ないというのもあるかと思う。

（部 会 員）　高校生を送り出す立場として思うことを言うと、例えば雄武高校の卒業生が、進学後、「雄武町に再び戻ってきたい」とか、「雄武町で働きたい」とか思うとするとすれば、やはり、高校までにどんな体験をしたかによると思う。小・中・高を通じて、例えば「インターンシップに行った際に出会った看護師が素晴らしかった」であるとか、「出会った保育士が良くて、私もあの保育士のようになりたい」と思えるかどうかだと思う。そうでないと、「札幌や旭川にでも就職するわ」となると思う。そのため、お願いをする立場として大変恐縮ではあるが、その職・仕事の魅力を伝えてほしいと思う。「こういったことが凄いよ」とか、「日頃生活していても表には見えてこないけど、こういった仕事をしていて、やりがいがある仕事だよ」というようなことを知る体験を、子どもたちには経験してほしい。そういったことを体験した子どもたちは、すぐ戻ってくるかどうかわからないが、意識するとは思う。今年の 3 年生は、「雄武町で保育士になりたい」、「雄武町で保健師になりたい」「栄養士になって雄武町に帰ってきたい」と言ってもらえている。実際に雄武町に戻ってくるかはわからないが、間違いなく意識はしている。高校としてインターンシップのお願いをしていると

ころではあるが、職業人、プロとしての心意気というようなことを語っていただく場があると、大変良いのではないかと思う。そういったことが人材確保の近道になるかもしれない。

（部 会 員） 現状では保育士を増やすというのは難しいことかもしれないが、何年か前の町の広報紙で、「将来保母さんになりたい」という子どもが掲載されており、小さい頃から（保育士という職業が）根付いているかと思うので、そういった想いをコツコツ大事にして、今の子どもたちから（若草保育所の保育士を）輩出させるような方向で PTA 等でも取り組みたい。保護者向けの学校アンケートの結果を見ていると、「こんなことまで書くか」と思ってしまうような意見があり、そういったことを踏まえると、親のレベルの低下というと失礼かもしれないが、PTA としても、親子自体の改心という訳ではないが、そういった取組が必要かもしれないと、今回の議論を通して勉強させてもらった。

（部 会 員） PTA が壁になるしかない。先生方にこれ以上負担を掛けられない。

（部 会 員） 先生方は狭間で非常に頑張っており苦労されている。

（ 町 ） 中学校は職場体験、高校においてはインターンシップとして保育所に来ていただいており、大変感謝している。大半の子どもたちが、自分が通っていた保育所で職場体験をすることとなる。ベテランの保育士も多くいるため、実際に保育していただいた保育士と話をすることで、懐かしく感じてもらっていると思う。（保育士目線として）今の若い保育士自身も、これから子どもたちが成長して職場体験に来ていただくと、同じようなイメージを持ってもらえると思う。そういった（職場体験等の経験を踏まえて保育士の道を目指す）ことを少しずつでもつなげていきたい。

（部 会 員） 更につながって、若草保育所に入所していた学生がインターンで雄武町に戻ってきた際に、思い出話に花が咲いてほしい。

●基本施策 2-9 社会福祉の充実

（部 会 員） 前回の部会では、高齢者や障がい者が一般町民と関わる機会の拡充について意見があった。

（部 会 員） 発達支援について、特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあると何年も前から思っている。中学校に入学予定の生徒数を見てもその傾向がある。中学校入学後の支援は発達の程度によって異なり、２～３人の生徒を１人の先生が支援したり、場合によってはマンツーマンでの支援が必要となるため、必ずしも児童生徒数だけで、担当する先生の数が画一的に決まるというものではな

いと思っている。また、障がいを持っている子どもの保護者に対して、早めに把握をして、適切な活動・学習の場を与えていくことがとても大切であると思うため、そういった面では、学校も保護者と話をするが、保護者により理解していただくためにも地域の方からも言っていただいた上で、病院等様々な場所で相談して現状を知ってもらうのが良いかと思う。これまで町で様々な取組を実施しているが、早期把握のため、今後も継続して対応していただけることが、子どもにとって将来的な幸せにつながるかと思う。以前もお伝えしたかもしれないが、特別な支援を必要とする子どもは、ある程度の年齢になると就労についても考えていかなければならない。働く場所、活動の場というものも町を挙げてある程度の確保、道筋をつけていかなければならないかと思うため、今後の検討についてぜひお願いしたい。

（部 会 員） 子どもが紋別市のことばの教室に通っている。本来は毎週通わなければいけないところを何とか月２回行っている状況である。冬場に紋別市へ通うのは月１回でも大変であり、ましてや毎週となると、仕事をしている身としてはかなりの負担となるため、紋別市から月１回でも良いので専門の先生が雄武町に来てくれないかと、何年も前から思っている。子ども自身も「紋別まで行くのが面倒くさい」であるとか、「こっち（雄武町）に先生が来てくれれば良いのに」と、本人も言っているため、専門の先生が月１回でも町内に来ていただけたら親としても助かるし、子どもの負担も減るかと思う。

（ 町 ） そのとおりである。専門の先生を町独自で確保するのが非常に難しいため、紋別市を中心とした広域連携という体制で確保しているのが現状である。委員が言われたような形ができればと思うため、意見として受け止め、機会ができたらことばの教室とも話をしたい。

（ 町 ） 専門の先生を呼べたらという意見について、ことばの教室の方ではないのだが、旭川市にある療育センター（子どもに特化した医療機関）から言語聴覚士の方に年２回来ていただいており、また、紋別市の療育センターの言語聴覚士や作業療法士等専門職の方を年に何回か招き、幼児健診、乳幼児の子どもを主に相談対応いただいているが、今の話を聞いて、小学校や中学校に進学してからもそういった相談ができるように発信したいと思う。年に何回かしかチャンスはないのだが、様々な方が利用できるように範囲を広げても良いかと思った。

（部 会 員） 福祉部局と教育委員会が連携をとりながら、年に複数回でも来ていただけるのであれば、保護者の負担も減るかと思われるので、ぜひ検討していただきたい。

●基本施策 2-10　社会保障制度の充実

（部 会 員）　低所得者の自立支援については、プライベートな事情もあることから、可能な限り匿名性を保った相談ができる場を設けていただきたい。質問なのだが、59ページ「達成目標」の指標である「生活保護率」について、令和３年度の現状値が 1.10%であるのに対して、令和９年度の目標値が 1.28%と上昇している。生活保護率が上がらないようにするのが自立支援であると思っており、上がる理由がわからなかったため、説明していただきたい。

（　町　）　指標としている生活保護率は人口に占める割合であるため、パーセンテージが上がったからといって、例えば生活保護を受給した方が増えたということには必ずしもならず、人口が減少したことによるパーセンテージの上昇もあり得る。

（部 会 員）　補足があると理解できるのだが、一般の町民が見た際に「保護率を上げても良いのか」と思われても良くないかと思う。あくまでも人口減少に伴うものであれば致し方ないかと思うが。

（　町　）　前期計画策定の際は 1.28%が実績値であり、目標値も 1.28%と、現状を維持するような目標であった。令和３年度現在で 1.10%であることから、もしかすると、他所管であるためわからないが（現時点で断定できないが）、現状維持として 1.10%を目標にするのかもしれない。

（部 会 員）　この辺りは、（所管からの）補足説明があれば十分に理解はできるかと思う。

（　町　）　次回（第４回）の専門部会までに整理させていただきたい。

【政策目標３　達成感から学ぶ教育のまち・雄武】

●基本施策 3-11　学校教育の充実

（部 会 員）　教育内容の面では GIGA スクール構想としてのタブレット端末の活用、教育環境の面では中学校の老朽化の問題を前回の部会で指摘されている。「開かれた学校づくり」はこの部会のメインになるかと思うが、コミュニティ・スクールの在り方、部活動の地域移行に対して町民の協力を得る必要があること等、非常に大きな課題であると思う。

（部 会 員）　高校に関する記述については、そのとおりだと思う。基本施策 3-11-1「小中学校の教育内容の充実」について、コロナ禍で難しいと思うが、自然体験や職業体験云々と並んでおり、個人的な思いもあるのだが、いずれは国際理解教育を展開できないかと思う。今すぐというのは情勢が厳しいかと思うが、ずっと自分の中で思っているのが、雄武町の子どもたちは、地域との連携を、保育所・小・中・高とできてきているかと思うが、外とのつながりとして、もう少し材

料が欲しいと正直なところ思っている。昔、小清水町の学校に赴任したことがあるが、オホーツク管内は結構早くから国際理解教育に取り組んでいる地区であるというイメージがある。小清水町や清里町はニュージーランドとの交流を20数年実施しており、私も当時携わっていたためよく覚えている。雄武町においても、かつては実施していたと聞いている。凄くお金をかけて大々的にやってほしいとは思っていないが、細く長くでも良いので、せっかくオンラインで交流できるツールがある状況であるので、産業理解教育も含めて、ニュージーランドやオーストラリアでも良いのだが、外国の酪農や漁業と関われるような町等と、生徒に限らず地域の方々も学べるような海外交流なり国際交流の取組はできないものかと思っている。中々具現化するには至っていないのが現実であるが。

（　町　）　様々なICT機器が普及し、GIGAスクール構想、１人１台タブレットパソコン端末といった取組も始まっている。学校内の通信環境も整ってきており、直接行かなくても様々な場所とつながる機会・手段ができてきている。実際に町内の小学校では、中国の学校とインターネットでつないだ交流を実施した。これは、雄武町に赴任していた先生が現在中国の日本人学校に派遣されていることがきっかけで実施したものである。また、社会科の学習の中で、道外の県庁とつないで、児童が興味を示した話題について意見交換をする等、取組を少しずつではあるが始まっている。海外とのつながりについては、ここ20年で様々な自治体が海外の都市と姉妹都市提携を結んでおり、雄武町は実施していないが、北海道としても姉妹都市提携している地域もあるため、関係各所を通じてきっかけを作っていきたいと思っている。今のところ具体的な話は無いのだが、企画調整係サイドにおいても、様々な地域間交流の中で、外国との交流の機運も高まっていくことになるかと思う。雄武町では佐賀県武雄市との児童交流を実施しているということもあるが、それをきっかけにフォローアップみたいに中学・高校とつながっていければとこちら（教育振興課）のイメージでは思っている。また、栃木県益子町との民間レベルでの交流も深まっているため、なるべくそういった体験をつなげていければと思っている。

（　町　）　企画調整係において姉妹都市提携調査検討事業ということで令和3年度に調査事業を立ち上げ、現在は検討段階である。将来、国外都市と姉妹都市提携をして、実際にどうなるかわからないが、中学生や高校生を対象としたグローバルな人材育成をやりたいという町長の考えがあり、公約としても掲げられている

ことから調査事業を立ち上げているのだが、本事業は総務・行財政部会の事業であり、別途開催される第３回総務・行財政部会において説明することとなっている。過去、竹下内閣時代に１億円が国から配られ、5,000 万円を基金に積み立て、小学生・中学生・高校生・社会人を海外に派遣した時期もあったが、今回、町長が考える「グローバルな人材育成」は、主に高校生・中学生となるかと思う。海外の都市と姉妹都市提携を正式に締結して事業を進めるということで、雄武高校とは何回も町長と話をしているかと思われるが、まずは、過去の海外派遣事業の効果の検証・総括を行い、今後、形にしていきたいと考えている。

（部 会 員） 武雄市との児童交流については、社会教育の管轄で実施しているが、子どもは武雄市に行きたいが、武雄市から児童を受け入れるホームステイを親が毛嫌いするため、「行っちゃいけない」と言われているケースもある。15 人の定員に満たない年もあり、受け入れをする時になって親が「うちは無理だから他の子と一緒に泊まってもらって」という現状がある中で、もう少し親の理解も含めて、国内の友好自治体との交流を深めたうえで、海外へ目を向けるような展開になるかと個人的には思う。益子町は小学４～５年生で雄武町 2 泊 3 日、小学 6 年生で修学旅行、中学 2 年生になると益子町地域間交流協会のお金で海外に行っている。今般益子町を訪問する予定であることから、そういった話を聞かせてもらいながら、町長と「どのようなことまでできるのか」ということを勉強していきたい。

（部 会 員） 例えば、Zoom 等を使って益子高校と雄武高校の生徒会が交流するとか、武雄高校と交流するとか、そういったことも発想としては面白いかと思う。実際に現地に赴くのは難しいが、小学校で交流した子が中学生になって Zoom で交流する等違った展開もできるかと思う。

（部 会 員） 雄武高校の見学旅行も東京・関西であるが、友好自治体の高校との交流が深まれば、東京に泊まらなければならないというものではないと思うため、益子町と武雄市を訪問するという議論があっても良いかと思う。まずはリモートで交流し、後々見学旅行で実際にその街の風を感じていただくような形が良いかと思う。

（部 会 員） この町で小さい時から同じメンバーで学校生活を過ごしているため、いじめの調査をしても、実際、無い。「本当かい？」と思うのだが。ただ、おふざけからちょっとしたことで本気になったりしてしまうため、見守りは続けている。勿

論、子どもたちは成長過程で衝突することもあるが、雄武町の子どもたちは、比較的、私が経験してきた中では、「良い子」という表現が正しいかわからないが、良い環境で育っているのだと思う。ただ、雄武の子どもたちのルールの中ではスムーズに物事が進むかと思うのだが、外部との交流となった時に、もっと経験が必要かと思う。外への発信という面では、雄武高校の見学旅行における雄武町 PR の取組は凄いと思う。これを中学校でもできるところは真似ていきたいと強く感じた。話題は変わるが、教育環境について、モノは勿論そうなのだが、GIGA スクール構想でタブレット端末を使ってインターネットでの交流や授業をしていくことになっており、小学校も併せて、教室内で十分に利用ができる環境にしていかなければ、整備が遅れると授業も遅れ、今後に関わってくるため、足りない部分があれば、早急に施設の増設等をお願いしていきたいと思っている。環境は「モノ」だけでなく、「人」もあると思う。先程、特別支援の話題が出たが、本校の特別支援学級には支援員が配置されている。授業をする方ではなく、授業中に生徒に付き添う方を確保していただいているが、教員、学校職員の立場からすると、付いてくださるのはありがたいが、正直、教員と同じように、授業ができる人員を確保していただけたらとてもありがたいという意見がずっと出ている。ただ、町の予算であるとか、これまでの経緯もあるかと思うため一概にはうまくいかないかと思うが、実は、私の前任校では定数外の教員として町費で１名任用していた。特別学級の支援員も３名いた。そのため、そういった「人」の面での環境について考慮いただけたら、支援学級の生徒への支援についてはとてもありがたいと凄く感じている。

（　町　）　教育委員会の仕事をしてきた中で先生方の大変な面が見えてきており、特に、特別支援については様々な児童生徒へのきめ細かな対応をしていただいている。そもそもの教員の配置基準が実態と合っていないという気がしている。（基準は国・道において決まっているものであるため）我々ではどうにもできない部分ではあるが、委員が言われたように、他自治体では町費で教員を任用しているところもある。教師を志望している方自体が減少しているということもある。町においては、特別支援の支援員ではないのだが、小規模校の複式学級において、どうしても教員１名では２つの学年を一緒に見なければいけないということで、「ふるさと教員」という制度を設けて募集していたのだが、何年も採用に至らず、以前は教員の卵のような方が応募してくれたこともあったが、今はそういった方もいない状況であるため、学習支援員という形でふるさと教員の代

替として配置している。教員の確保というのは難しい現状にあるということを理解いただきたい。

（部 会 員）　コミュニティ・スクールに関しては、今後１～２回開催される中で、次年度の方向性を議論し、何らかの形で町民にお知らせしたい。

●基本施策 3-12　生涯学習・生涯スポーツの推進

（部 会 員）　前回の部会では、何分にもスポーツセンターの老朽化、今年トレーニング室を改修したところであるが、施設全体について今後どうしていくかについて主に議論をおこなった。周辺のスポーツ施設も含めて、町民も交えて、以前の「図書館を考える会」ではないが、そういった会を作って検討していければと考えている。スポーツ関連施設だけでなく、学校施設（小中高）の問題もあるため、それらも絡めた中で考えていきたいと思っている。

（　町　）　教育施設自体が昭和 50 年頃からの 10 年間で一気に建設されたため、同時期に全体的な老朽化が進んでいる状況にある。雄武小学校、雄武中学校、スポーツセンター、武道センター等がある末広町一区は、かなり老朽化している施設もあるため、その中で、教育委員会としては、個々の施設を単独でどう建設するかという考え方は現実的には難しい話であるため、周辺施設を一体的・複合的に考えて、どうしていくかという構想を立ててから進めていきたいと考えている。特に、委員から意見が出た中学校の老朽化がある。同じように小学校も老朽化しているため、この辺りも含めて、教育委員会としては、施設の優先順位としては学校施設をまず中心に見直しをしながら、スポーツ施設、例えば、スポーツセンターにしても単独のスポーツセンターが良いのか、学校の体育館と共用できるように複合的なものが良いのか、その辺りも町民の皆さんの意見も聞きながら考えていきたいと思っている。次回の部会において実施事業を説明予定であるが、調査研究を行い、なるべく早期に進めていきたいところである。

（部 会 員）　中学校の改修については喫緊の問題であると思うため、それも絡めた中で早急にある程度の計画書を作っていきたいと思っている。

（部 会 員）　仕事で様々な市町村にお手伝いに行くのだが、遠軽町に行った際、最近オープンした「メトロプラザ（遠軽町芸術文化交流プラザ）」を昼食会場としていただき施設内を見学したのだが、話を聞くと、著名な劇場プロデューサーをアドバイザーとして誘致し、設計に関わってもらいながら建設されたという。そのため、例えばスポーツセンターを改修するにしても、それに特化した方を招いて、どのように改修を進めていくかを考えるのも一つの手ではないかと思う。

（部 会 員）　私も同じような意見で、スポーツセンターを壊して新たに建設するのではなくて、今のスポーツセンターをどのように改修したら何に再利用できるのかだとか、そういったものも含めて検討していきたいと思う。勿論、それに特化した方からアドバイスをいただきながら、武道センター、プール等の老朽化の問題もあるため、複合的に考えていかなければ、ハードばかり建設して町の財政を逼迫させかねないが、学校関連施設も含めて、ある程度は新しい施設を建設していきながら、より良い、快適なまちづくりをしていかなければならないと思う。

（部 会 員）　10 月 31 日に町長、教育長と中高生の意見交流会が行われた際に、生徒から、これからのまちづくりとして、小学校や中学校をはじめ、様々な施設をできるだけコンパクトにまとめた「集約型施設」にしたら良いのではないかという提案があった。これは私もずっと思っていたことで、先程の遠軽町のメトロプラザではないが、これからの「まちづくりのコンセプト」をしっかりと持ち、それを共有できる方々と一緒に考えていくスタイルが、これからの時代の姿なのだろうなと思う。東川町の小学校は、7～8年程前に新築で建設されたのだが、コミュニティ・ルームがあったり、ちょっとしたミニコンサートホールがあったり、小学校なのだけれども社会教育施設を詰め込んだような施設を造っており、それを設計したのは北海道大学工学部の教授である。工学部の研究室とリンクして、町のコンセプトを伝えて、北大が設計した。私も何回も行っているが、自然光の取り入れ方や、高齢者が訪れることができるよう場がある等、凄く考えられており、勉強になった。雄武町ではどういったコンセプトでやるのかとなった時には、専門家の力を借りて、大きな建物は造れないかと思うが、将来を見据えた、小中一体型でも良いかと思うし、そういうコンセプトがあると良いものが造れるのではないかと思う。

（部 会 員）　以前の部会でも、1+1 が 2 となる施設ではなく、1+1 が 3 や 4 になるような複合施設を、これからの時代は考えていかなければならない。西興部村では、ホテルと図書館と公民館を兼ねた施設だと思う。その周りには病院や保健施設等がまとまっている。そういった意味では委員が言われたように、できるだけコンパクトに集約した施設が求められるまちづくりなのではないかと思う。ただ、いかんせん既存の建物をくっつけることにはならないため、それはある程度の交通手段を使いながら活用していくことになると思う。

（部 会 員）　人口減少で大きな建物は造れない中、子どもをメインにするのか、大人をメイ

ンにするのか、誰をターゲットにして施設を造るかというのは難しいことだと思う。

（　町　）　これから議論していく中で考えていくこととなるが、例えばスポーツセンターの場合、開館時間は午後３時であり、建物はあるけれども午前中は使われていない。勿体ないことである。複合化という意味で先程言ったのは、例えば朝から午後３時までは生徒に使ってもらっても良いのではないかというような、時間、曜日、時期によって様々な人が利用できるような、１つの建物で複数の役割を果たせるような施設の整備を考えていくイメージを持っている。

（部 会 員）　今、中学校は図書館と学校図書との連携ということで、学校図書館の蔵書についても図書館とデータで共有しあったりすることができると思われるため、より学校図書館が使いやすくなったり、より様々な本に関われる可能性がでてくるだろうと、とても楽しみに思っている。

（部 会 員）　読書感想文コンクールの審査委員を務めているのだが、図書館が新しく整備されたことにより、児童生徒が選ぶ図書の内容や深みが変わったというのが一番私自身痛感している。新書が沢山あるため、図書館に行ってそういった本を選び、感想文を書けるような子どもたちになったのだと思われる。

4　その他

下記の３点について、企画調整係長から補足。

〇基本計画の策定にあたり、審議会委員のほか、広く町民から意見を求めるため、第３回策定審議会後から 11 月 14 日（月）まで、「第６期雄武町総合計画後期基本計画（令和５年度～令和９年度）（案）」のパブリックコメント（意見募集）を実施している。

○第３回策定審議会で配付した「答申に向けた意見（社会福祉・教育部会）」については、可能であれば次回の専門部会において提出いただきたい。

○第４回専門部会は予定通り 11 月 10 日（木）18 時 30 分から開催する。今回配付した実施計画書に基づき、担当課から主要な事業を説明する。

5　閉会（閉会時刻：午後８時３９分）